

第3節 人骨の人類学的分析

第1項 はじめに

大阪府松原市立部3丁目339-1外に所在する立部遺跡の発掘調査が施設整備事業に伴って平成2年（1990）におこなわれ、蔵骨器が出土した。蔵骨器の内部には火葬骨が充填されていた。これまで多数の蔵骨器に収められた火葬骨を調査してきたが、口縁近くまで火葬骨が充填された蔵骨器はみたことがない。通例の納骨様式とは異なる事情が想定される事例である。

奈良・平安時代人骨の報告例は少なく、筆者らがおこなった奈良時代の火葬骨の鑑定は5例しかない。初例は鹿児島県曾於市財部町の黒田B遺跡（松下、1984）で、2例目は山口県長門市の上藤中横穴から出土した火葬骨で（松下、1999a）、8世紀前半に属する。3例目は岡山県苦田郡奥津町の久田原遺跡（松下、2004a）、4例目は同じく奥津町の夏栗遺跡（松下、2005a）で、5例目も同じく勝北町の山ノ奥遺跡（松下、2004b）で、いずれも8世紀に属する火葬骨である。山ノ奥遺跡から出土した蔵骨器には、14歳前後の小児と壮年女性の2体分の遺骨が納められていた。この他に奈良時代の火葬骨としては、出雲市の光明寺3号墓（井上、2000）や鳥取県倉吉市長谷遺跡（井上、1992）の例がある。また、平安時代の火葬骨例も著しく少なく、筆者らが鑑定したものは鹿児島県曾於市末吉町の小平遺跡（松下、1984）、山口県周東町上久宗遺跡（松下、1995）、岡山県美作市八幡山遺跡（松下、2008）、熊本市の大江（学苑住宅）遺跡群（松下、2006）、大江63次調査区（松下・他、2016）、江津湖遺跡群、宮崎県高鍋町老瀬坂上第3遺跡（松下、2005）から出土した例がある程度である。

火葬骨は、上から順に約2cmの幅で7層に分けて取り上げてあった。また、取り上げに際してはそれぞれ番号を付けて取り上げられていたので、できる限り番号を残しながら、骨の同定と接合をおこなった。

第2項 資料の概要

本蔵骨器は口径9.5cm、底径12.5cm、最大径23.4cm、器高23.6cmの短頸壺である。この蔵骨器

は約1m四方の土坑内に埋設してあったことから、火葬墓と認定されている。蔵骨器の埋土には炭が多く含まれていたという。蔵骨器に埋納されていた骨はすべて火葬骨である。また、歯についても火を受けた痕跡が認められる。残存量はかなり多く、重量にして1617gである。ほとんど全身部位の骨を確認することができたが、すべての骨が蔵骨器に納められたわけではなく、頭蓋や四肢長骨が主に納められており、肋骨や椎骨の量は少ない。

すべての骨を解剖学的、人類学的に精査したところ、この蔵骨器に納められていた火葬骨は1体分の熟年の男性骨である。骨には、火葬骨特有の鱗片状の亀裂や熱による捻れがみられる。本人骨は蔵骨器の考古学的所見から平安時代前半（9世紀前半）の火葬骨と推測される。火葬温度があまり高くなかったようで、四肢長骨については破碎された骨片を接合し復元することができた。なかには計測すること

表2 資料数 (Table 2. Number of materials)

成 人			幼 小 児	合 計
男 性	女 性	不 明		
1	0	0	0	1

表3 出土人骨一覧 (Table 3. List of skeletons)

納器の種類	性別	年齢	重量
蔵骨器	男 性	熟 年	1617g

表4 年齢区分 (Table 4. Division of age)

年齢区分	年	齢
未成人 乳児	1歳未満	
幼児	1歳～5歳	(第一大臼歯萌出直前まで)
小児	6歳～15歳	(第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
成年	16歳～20歳	(蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人 壮年	21歳～39歳	(40歳未満)
熟年	40歳～59歳	(60歳未満)
老年	60歳以上	

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（1996）を参照されたい。

が可能な骨もあった。計測方法は、Martin-Saller (1957) によった。なお、年齢区分に関しては表4の基準のとおりである。

第3項 所見

計測ができた骨の計測値は文末に一括して掲げた。

1. 人骨の埋納状態

蔵骨器には骨が隙間なく充填されていた。埋納されていた骨は7層に分けて取りあげられていたが、頭蓋や四肢骨、指の骨にいたる各部位の骨片は各層から出土していることから、骨を種類別に意図的に分けて蔵骨器に納めたとは考えにくい。

出土した火葬骨の総重量は1617gで、頭蓋（下顎骨を含む）は267gである。男性1体分の火葬骨の重量は白人で約3000gとされているので、全身骨のすべてが残っていたわけではないが、これまで蔵骨器から検出された多くの火葬骨の例からすれば、例外的に多くの骨種の、またかなりの量の骨が納められている。出土した骨片の大きさは左側橈骨体の10cmが最大であるが、その他はすべて10cm未満の大きさで、ほとんどが5cm程度の骨片である。蔵骨器に大量の火葬骨を納めるため、骨は小さく破碎されている。

火葬された骨の色は焼成温度によって変化し、焼成温度が500度前後は黒色、600度～900度は灰色から白色、900度以上では白色や淡黄色となる。700度以上では亀裂や収縮が起きる。また、灰白色や白色の細かい焼骨が残存する場合、15%～30%の収縮を考慮する必要があるとされている（梶ヶ山、2015）。本人骨の色は黒色から淡黄色まで存在し、同じ骨、同じ部位で接合が可能なものであっても色が異なるもののが存在する。また、骨の変形はあるものの、それほどひどい変形が見られない部位が存在することから、600度前後の比較的低い温度で火葬され、部位によって焼成温度にかなりのムラがあったことが想定される。

骨になった状態で骨を焼いた場合と軟部組織が残った状態で火葬した場合では、骨の状態に違いが見られる。軟部組織が残存した状態で火葬すると、体内や骨に存在する水分やミネラルの影響を受け、

骨は亀裂や割れを生じ、捻れや歪みを生ずる。一方、骨になった状態で焼いた場合は亀裂や捻れなどの変形はみられない。本火葬骨には亀裂や捻れなどの変形が認められることから軟部組織が残存した状態で火葬されたと考えられる。

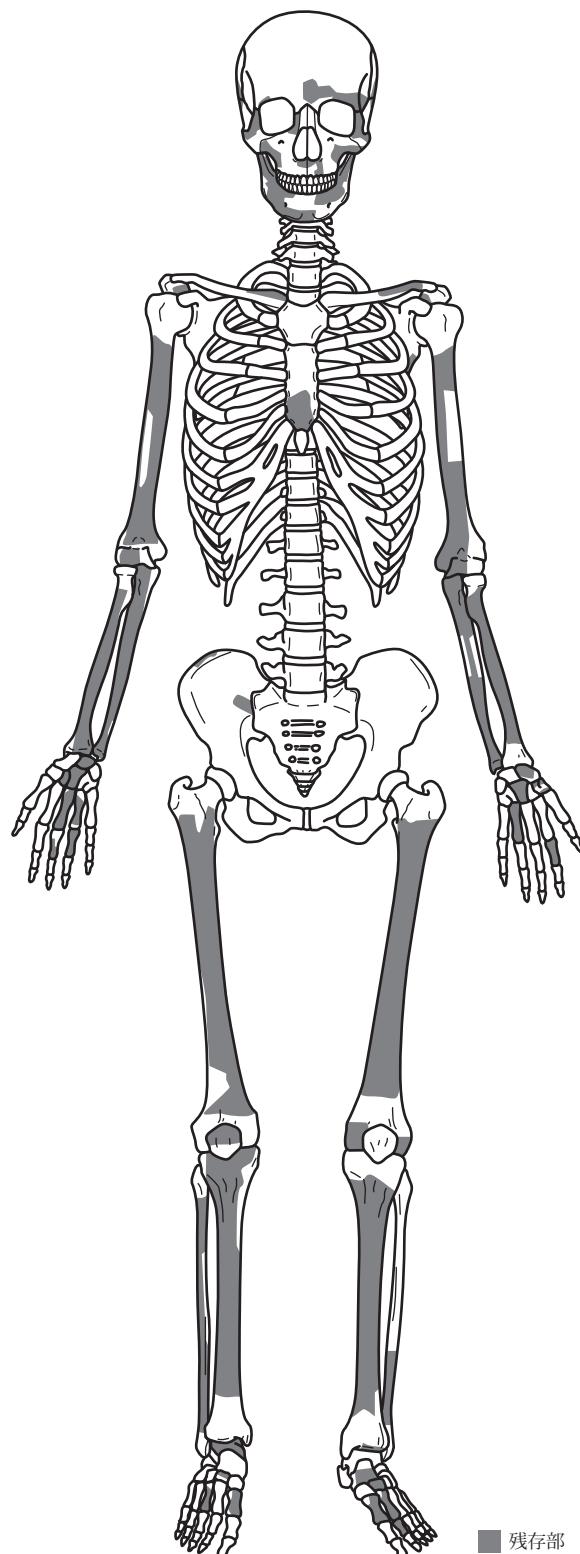


図47 人骨の残存図

2. 人骨の形質（男性・熟年）

(1) 頭蓋

① 脳頭蓋

後頭骨、側頭骨、頭頂骨と前頭骨の一部が残存していた。その他、部位が不明な細片骨が多く存在していることから、脳頭蓋はほぼ埋納されていたと考えられる。外後頭隆起の観察が可能であったが、その発達は強く、最上項線は明瞭である。乳様突起も大きい。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は認められない。縫合は、ラムダ縫合と矢状縫合、冠状縫合の一部の観察ができた。三主縫合の内板は癒合しており、外板でも一部癒合が進んでいるが、大部分は開離している。

脳頭蓋の計測はできなかった。

② 顔面頭蓋

前頭骨の左側眼窩上縁と頬骨、上顎骨の一部、右側上顎骨の前頭突起が残存していた。眉上弓はやや隆起している。

下顎骨は、下顎体底部が欠損しているが、遺存状態は比較的良好である。下顎体はやや高く、下顎枝は細い。下顎切痕は深そうで、下顎角はやや外反していたようである。

(2) 歯

遊離歯が残存していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

/ / / /	② ③ ④ / / / ⑧
⑧ ⑦ 6 ⑤ 4 ③ / 1	/ / 3 ④ ⑤ ⑥ 7 ⑧

[○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 /：不明（破損）]

(1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの3度（咬耗が象牙質まで及ぶ）である。歯の咬合形式は不明である。

(3) 四肢骨

① 上肢骨

肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。上肢骨は下肢骨に比べると熱による変形がかなり弱い。

a. 上腕骨

両側が残存していた。復元はできなかったが、骨

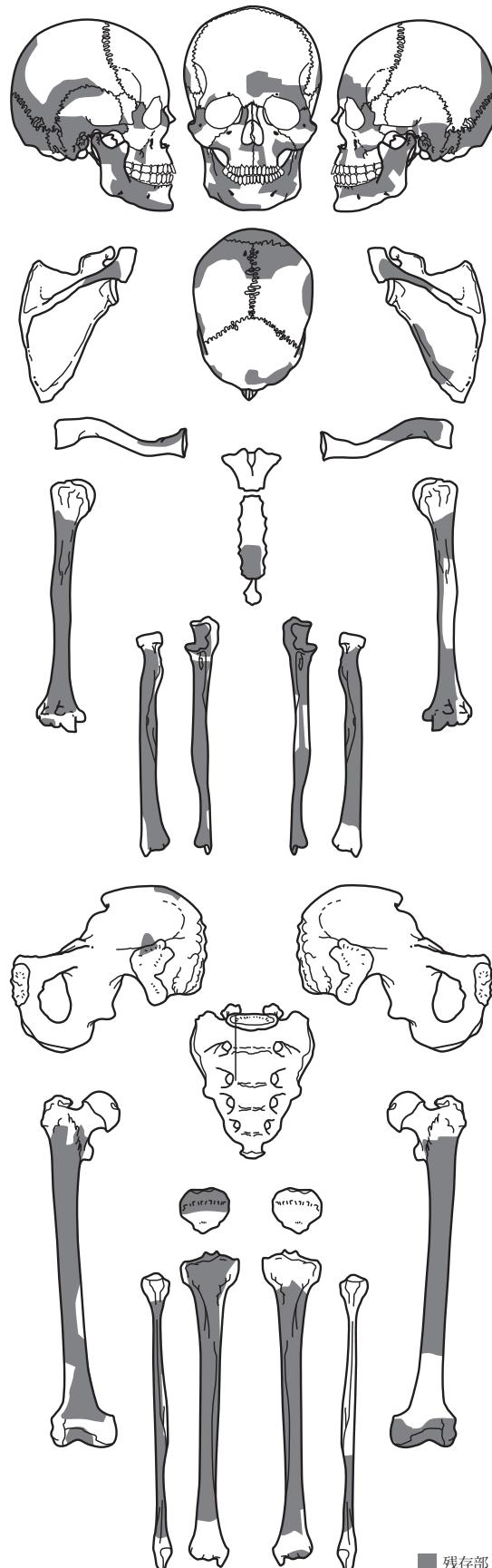


図 48 人骨の残存図（展開）男性・熟年

(The skeleton from the cinerary urn at the Tatube site, mature male)

頭や上腕骨顆も残存しており、骨体の遺存状態は比較的良好である。また、右側骨体は焼成に伴う変形もあまり強くない。三角筋粗面の発達は良好である。

焼成の影響を受けて変形したり、収縮していると推測されるので、計測値は実際の値とは若干の誤差があると思われるが、計測が可能なので、計測してみた。

中央周は70mm(右)で、骨体は太い。中央最大径は23mm(右)、中央最小径が17mm(右)で、骨体断面示数は73.91(右)となり、骨体は扁平である。

b. 橋骨

両側が残存していた。復元はできなかったが、遠近両端部も残存している。長さはやや長く、骨体は太い。骨間縁の発達もきわめて良好である。

c. 尺骨

両側が残存していた。復元はできなかったが、遠近両端部も残存している。長さはやや長い。肘頭など近位端は大きく、骨体は太い。また、骨間縁の発達もきわめて良好である。

②下肢骨

寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨が残存していた。

a. 寛骨

右側の腸骨稜辺りと寛骨臼窓および耳状面の一部が残存していた。その他、左右不明の腸骨体の一部が残存していたが、保存状態は悪い。

b. 大腿骨

両側とも残存していた。右側の骨体は焼成の影響を受け、後方へ強く彎曲している。復元はできなかつたが、骨頭や遠位部も残存しており遺存状態は比較的良好である。骨体周の推定値は85mm(右)程度で、骨体はやや細い。粗線は明瞭で、骨体両側面の後方への発達も比較的良好である。また、骨体上部は扁平である。

c. 脣骨

両側が残存していた。復元はできなかつたが、遠近両端部も残存していた。左側の遠位部は焼成により後方へ強く彎曲している。遺存状態は比較的良好である。長さは短く、骨体はやや細い。ヒラメ筋線

の発達は良好である。骨体の断面形は、右側は不明であるが、左側はヘリチカのV型（後面が卵円形）を呈している。

計測値は、骨体周が72mm(左)、最小周は68mm(左)で、骨体はやや細い。中央最大径は25mm(左)、中央横径が20mm(左)で、中央断面示数は80.00(左)となり、骨体には扁平性は認められない。

d. 腓骨

両側が残存していた。保存状態は悪い。骨体は細いが、骨間縁の発達は良好である。

(4) 推定身長値

四肢骨の最大長が計測できないので推定身長は算出できないが、比較的保存状態が良好な大腿骨と上腕骨から最大長を推定してみると、大腿骨最大長は410～420mm(右)、上腕骨最大長は305～310mm(左)となり、Pearsonおよび藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ大腿骨最大長からは158.39～160.27cm(Pearson、右)、156.17～158.64cm(藤井、右)、上腕骨最大長からは158.91～160.36cm(Pearson、左)、159.22～160.64cm(藤井、左)となり、身長はそれほど低くない。

(5) 性別・年齢

性別は、外後頭隆起の発達が良好で、上肢骨の骨体が大きいことから男性と推定した。年齢は、三主縫合の内板は完全に癒合し、外板は一部癒合が進んでいるものの、大部分は開離していることから熟年と考えられる。

第4項 要約

大阪府松原市立部3丁目に所在する立部遺跡の発掘調査が施設整備事業に伴って平成2年(1990)におこなわれ、蔵骨器1基から1体分の火葬骨が出土した。残存量は多く、保存状態は比較的良好であった。骨片を接合し、復元して人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 蔵骨器から検出されたのは1体分の熟年・男性の火葬骨である。
2. この人骨は、蔵骨器の考古学的所見から、平安

時代（9世紀前半）に属する人骨である。

3. 蔵骨器から出土した人骨の総重量は、1617gであった。
4. 蔵骨器には各部位の骨がまんべんなく納められていたが、量が多かったのは頭蓋と四肢長骨で、肋骨や椎骨は少なかった。特に上腕骨、大腿骨、脛骨はほぼまるごと埋納されていた。
5. 上腕骨の中央周は70mm（右）、骨体断面示数が73.91（右）で、骨体は太く、扁平である。
6. 大腿骨の骨体周は推定値で85mm（右）で、骨体はやや細い。
7. 脛骨の骨体周は72mm（左）、最小周は68mm（左）、中央断面示数は80.00（左）で、脛骨はやや細く、骨体には扁平性は認められない。
8. 推定身長は、大腿骨最大長からは158.39～160.27cm（Pearson、右）、156.17～158.64cm（藤井、右）、上腕骨最大長からは158.91～160.36cm（Pearson、左）、159.22～160.64cm（藤井、左）となり、身長はそれほど低くなかったと思われる。
9. 焼成による変形・収縮をある程度考慮したとしても、本被葬者の上腕骨は太く、大腿骨と脛骨がやや細いことから、下肢筋に比べ上肢筋を比較的よく使用していた生活様式が想定できる。
10. 本蔵骨器には、火葬した頭蓋や四肢長骨がほとんどすべて埋納されている。これまで蔵骨器からは少量の火葬骨しか検出されないことが多く、分骨した可能性も想定する必要があった。本例の場合はできるだけ多くの骨を埋納しなければならない事情があったものと思われる。本事例は火葬骨の処理の仕方や葬送儀礼を考察するうえで貴重な事例になるものである。
5. 松下孝幸、1984：鹿児島県大隅半島出土の火葬骨。鹿児島考古第18号：163－169.
6. 松下孝幸、1995：山口県周東町上久宗遺跡出土の火葬骨。（山口県埋蔵文化財調査報告第174集）：25－30.
7. 松下孝幸、1999：長門市上藤中横穴出土の奈良時代火葬骨。上藤中横穴墓群（長門市埋蔵文化財調査報告第3集）：15－18.
8. 松下孝幸、2004：岡山県奥津町久田原遺跡出土の奈良時代火葬骨。久田原遺跡・久田原古墳群（岡山県埋蔵文化財調査報告184）：759－764.
9. 松下孝幸、2004：岡山県勝北町山ノ奥遺跡出土の奈良時代火葬骨。山ノ奥遺跡 池東・溢田遺跡（岡山県埋蔵文化財調査報告180）：121－129.
10. 松下孝幸、2005：岡山県奥津町夏栗遺跡出土の奈良時代火葬骨。夏栗遺跡（苦田ダム建設に伴う発掘調査）（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告194）：651－652.
11. 松下孝幸、2005：宮崎県高鍋町老瀬坂上第3遺跡出土の平安時代火葬骨。老瀬坂上第3遺跡（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第118集）：138－142.
12. 松下孝幸、2006：熊本市大江（学苑住宅）遺跡群出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群II（熊本県文化財調査報告第231集）：80－84.
13. 松下孝幸、2008：岡山県美作市八幡山遺跡出土の平安時代火葬骨。八幡山遺跡・八幡山南遺跡・八幡山円明寺跡・尾崎遺跡・中町B遺跡・穴が溢遺跡・穴が溢古墳・今岡D遺跡・今岡中山遺跡・今岡古墳群・高岡遺跡（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告213）：529－534.
14. 松下孝幸・他、2016：熊本市大江63次調査区出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群12（熊本市の文化財第60集）：71－81.

【参考文献】

1. 井上晃孝、1992：3区古墓の火葬骨。長谷遺跡発掘調査報告書（倉吉市文化財調査報告書第76集）：106－109.
2. 井上晃孝、2000：出雲市上塩冶町光明寺3号墓火葬骨。光明寺3号墓・4号墳（斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書II）：54－63.
3. 梶ヶ山真理、2015：萩山遺跡出土人骨。萩山遺跡（埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告第17集）：77－80.
4. Martin-Saller, 1957 : Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart : 429－597.

松下 真実 Masami MATSUSHITA

松下 孝幸 Takayuki MATSUSHITA

The Organization of Anthropological Research

[N P O 法人・人類学研究機構]

表5 下顎骨（男性、mm、度）(Mandibula)

		立部	
		藏骨器人骨	
		男性	
65	下顎関節突起幅	—	—
65(1).	下顎筋突起幅	—	—
66	下顎角幅	—	—
67	前下顎幅	—	—
68	下顎長	—	—
68(1).	下顎長	—	—
69	オトガイ高	—	—
69(1).	下顎体高	(右) (左)	—
69(2).	下顎体高	(右) (左)	— 29
70	枝高	(右) (左)	— —
70(1).	前枝高	(右) (左)	— —
70(2).	最小枝高	(右) (左)	— —
70(3).	下顎切痕高	(右) (左)	— —
71(1).	下顎切痕幅	(右) (左)	— —
71	枝幅	(右) (左)	29 —
71a.	最小枝幅	(右) (左)	29 —
79	下顎枝角	(右) (左)	— —
66/65	下顎幅示数	—	—
68/65	幅長示数	—	—
68(1)/65	幅長示数	(右)	—
69(2)/69	下顎高示数	(右) (左)	— —
71/70	下顎枝示数	(右) (左)	— —
71a/70(2)	下顎枝示数	(右) (左)	— —
70(3)/71(1)	下顎切痕示数	(右) (左)	— —

表6 上腕骨（mm）(Humerus)

		立部	
		藏骨器人骨	
		男性	
1.	上腕骨最大長	(右) (左)	— —
2.	上腕骨全長	(右) (左)	— —
3.	上端幅	(右) (左)	— —
3(1).	横上径	(右) (左)	— —
4.	下端幅	(右) (左)	— —
5.	中央最大径	(右)	23
6.	中央最小径	(右)	17
7.	骨体最小周	(右) (左)	— —
7(a).	中央周	(右) (左)	70
8.	頭周	(右) (左)	— —
9.	頭最大横径	(右) (左)	— —
10.	頭最大矢状径	(右) (左)	— —
11.	滑車幅	(右)	—
12.	小頭幅	(右)	—
12(a).	滑車幅および小頭幅	(右) (左)	— —
13.	滑車深	(右) (左)	— 24
14.	肘頭窩幅	(右) (左)	— —
15.	肘頭窩深	(右) (左)	— —
6/5	骨体断面示数	(右) (左)	73.91 —
7/1	長厚示数	(右) (左)	— —

表7 槇骨(男性、mm) (Radius)

		立部	藏骨器人骨	男性
1.	最大長	(右)	—	
		(左)	—	
1b.	平行長	(右)	—	
		(左)	—	
2.	機能長	(右)	—	
		(左)	—	
3.	最小周	(右)	—	
		(左)	42	
4.	骨体横径	(右)	—	
		(左)	17	
4a.	骨体中央横径	(右)	—	
		(左)	14	
4(1).	小頭横径	(右)	—	
		(左)	—	
4(2).	頸横径	(右)	—	
		(左)	—	
5.	骨体矢状径	(右)	—	
		(左)	13	
5a.	骨体中央矢状径	(右)	—	
		(左)	13	
5(1).	小頭矢状径	(右)	—	
		(左)	—	
5(2).	頸矢状径	(右)	—	
		(左)	—	
5(3).	小頭周	(右)	—	
		(左)	—	
5(4).	頸周	(右)	—	
		(左)	—	
5(5).	骨体中央周	(右)	—	
		(左)	44	
5(6).	骨下端幅	(右)	—	
		(左)	—	
3/2	長厚示数	(右)	—	
		(左)	—	
5/4	骨体断面示数	(右)	—	
		(左)	—	
5a/4a	中央断面示数	(右)	—	
		(左)	—	

表8 尺骨(mm) (Ulna)

		立部	藏骨器人骨	男性
1.	最大長	(右)	—	
		(左)	—	
2.	機能長	(右)	—	
		(左)	—	
2(1).	肘頭尺骨頭長	(右)	—	
		(左)	—	
3.	最小周	(右)	—	
		(左)	—	
6.	肘頭幅	(右)	—	
		(左)	—	
6(1).	上幅	(右)	—	
		(左)	34	
7.	肘頭深	(右)	—	
		(左)	—	
8.	肘頭高	(右)	—	
		(左)	22	
11.	尺骨矢状径	(右)	—	
		(左)	—	
12.	尺骨横径	(右)	—	
		(左)	—	
S	中央最小径	(右)	—	
		(左)	—	
L	中央最大径	(右)	—	
		(左)	—	
C	中央周	(右)	—	
		(左)	—	
3/2	長厚示数	(右)	—	
		(左)	—	
11/12	骨体断面示数	(右)	—	
		(左)	46.23	
S/L	中央断面示数	(右)	—	
		(左)	42.86	

表9 大腿骨（男性、mm）(Femur)

		立部	
		藏骨器人骨	
		男性	
1.	最大長	(右)	—
		(左)	—
2.	自然位全長	(右)	—
		(左)	—
3.	最大転子長	(右)	—
		(左)	—
4.	自然位転子長	(右)	—
		(左)	—
6.	骨体中央矢状径	(右)	—
		(左)	—
7.	骨体中央横径	(右)	—
		(左)	—
8.	骨体中央周	(右)	—
		(左)	—
9.	骨体上横径	(右)	35
		(左)	—
10.	骨体上矢状径	(右)	—
		(左)	—
15.	頸垂直径	(右)	—
		(左)	—
16.	頸矢状径	(右)	—
		(左)	—
17.	頸周	(右)	—
		(左)	—
18.	頭垂直径	(右)	—
		(左)	—
19.	頭横径	(右)	—
		(左)	—
20.	頭周	(右)	—
		(左)	—
21.	上顆幅	(右)	—
		(左)	—
8/2	長厚示数	(右)	—
		(左)	—
6/7	骨体中央断面示数	(右)	—
		(左)	—
10/9	上骨体断面示数	(右)	—
		(左)	—

表10 胫骨（mm）(Tibia)

		立部	
		藏骨器人骨	
		男性	
1.	胫骨全長	(右)	—
		(左)	—
1a.	胫骨最大長	(右)	—
		(左)	—
1b.	胫骨長	(右)	—
		(左)	—
2.	顆距間距離	(右)	—
		(左)	—
3.	最大上端幅	(右)	—
		(左)	—
3a.	上内関節面幅	(右)	—
		(左)	—
3b.	上外関節面幅	(右)	—
		(左)	—
4a.	上内関節面深	(右)	—
		(左)	—
4b.	上外関節面深	(右)	—
		(左)	—
6.	最大下端幅	(右)	—
		(左)	—
7.	下端矢状径	(右)	—
		(左)	—
8.	中央最大径	(右)	—
		(左)	25
8a.	栄養孔位最大径	(右)	35
		(左)	34
9.	中央横径	(右)	—
		(左)	20
9a.	栄養孔位横径	(右)	25
		(左)	24
10.	骨体周	(右)	—
		(左)	72
10a.	栄養孔位周	(右)	—
		(左)	94
10b.	最小周	(右)	—
		(左)	68
9/8.	中央断面示数	(右)	—
		(左)	80.00
9a/8a	栄養孔位断面示数	(右)	—
		(左)	70.59
10b/1	長厚示数	(右)	—
		(左)	—

表 11 形態小変異 (Non-metroric crania variants)

		立部 藏骨器人骨	
		男性	
		右	左
1.	Medial palatine canal	/	/
2.	Pterygospinous foramen	/	/
3.	Hypoglossal canal bridging	/	/
4.	Clinoid bridging	/	/
5.	Condylar canal absent	/	/
6.	Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke(> 1mm)	—	/
7.	Jugular foramen bridging	/	/
8.	Precondylar tubercle	/	/
9.	Supra - orbital foramen (incl. frontal foramen)	/	—
10.	Accessory infraorbital foramen	/	/
11.	Zygo - facial foramen absent	/	/
12.	Aural exostosis	—	—
13.	Metopism	/	
14.	Os incae	—	
15.	Ossicle at the lambda	—	
16.	Parietal notch bone	—	/
17.	Transverse zygomatic suture (> 5mm)	/	/
18.	Asterionic ossicle	/	/
19.	Occipitomastoid ossicle	/	/
20.	Epipteris ossicle	/	/
21.	Frontotemporal articulation	/	/
22.	Biasterionic suture (> 10mm)	/	/
23.	Mylohyoid bridging	/	/
24.	Accessory mental foramen	/	/
25.	Mandibular torus	/	+
26.	滑車上孔 (上腕骨)	—	—

〔 present : +, absent : -, unobservale : / 〕



写真7 頭蓋正面 (Front view of the skull)



写真8 下顎骨 (The mandible)

立部蔵骨器人骨 (男性・熟年)
(The skeleton from the cinerary urn at the Tatube site ,mature male)

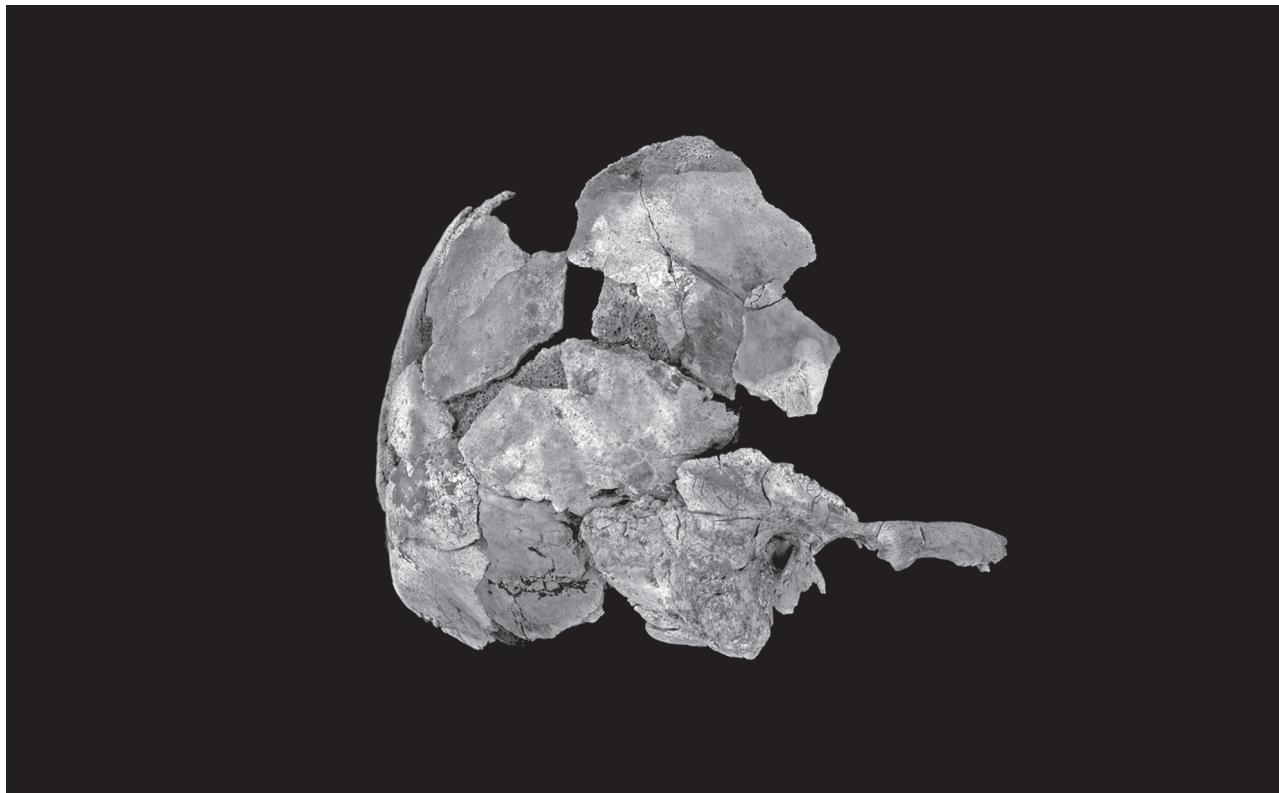


写真9 頭蓋側面 (Lateral view of the skull)



写真10 頭蓋側面 (Poster view of the skull)

立部蔵骨器人骨 (男性・熟年)

(The skeleton from the cinerary urn at the Tatube site ,mature male)



写真 11 第1頸椎（環椎）、第2頸椎（軸椎）（The atlas. The axis）



写真 12 頭蓋片（The fragment of skull）

立部蔵骨器人骨（男性・熟年）
(The skeleton from the cinerary urn at the Tatube site ,mature male)



写真 13 肩甲骨・寛骨 (The scapula. The coxa)



写真 14 指 (The finger. The top)

立部蔵骨器人骨 (男性・熟年)
(The skeleton from the cinerary urn at the Tatube site ,mature male)



写真 15 上肢骨 (Bones of the upper limb)

立部蔵骨器人骨 (男性・熟年)
(The skeleton from the cinerary urn at the Tatube site ,mature male)



写真 16 下肢骨 (Bones of the lower limb)

立部藏骨器人骨 (男性・熟年)

(The skeleton from the cinerary urn at the Tatube site ,mature male)



写真 17 サンプル上腕骨との比較



写真 18 サンプル大腿骨との比較

立部蔵骨器人骨（男性・熟年）

(The skeleton from the cinerary urn at the Tatube site ,mature male)